

# 平成28年度 校内研究のまとめ

阿賀町立上条小学校

## 1 研究主題

### 自分の考えを広げ・深める子どもの育成

～かく（書く・描く）・操作する活動を伝え合う力の向上につなげる算数科指導を通して～

## 2 研究主題のとらえ

### (1) 自分の考えを広げる・深める

- 課題を把握し、既習の学習内容を想起して解決の見通しをもつ
- 課題解決での思考の過程を整理し、自分の考えを深める
- 伝え合いの中で、友達の考えを聞いて思考を広げること

### (2) かく・操作する活動

- 算数用語や図、表などを用いて、自分の考えを分かりやすくかくこと
- 具体物や半具体物を操作して、自分の考えを分かりやすく表現すること

### (3) 伝え合う力の向上

- 自分の考えを順序を追って分かりやすく説明すること
- 友達の考えと自分の考えとの異同に気を付けて聞くこと

## 3 研究にかかわる目指す子どもの姿

低学年 …①自分の考えをもつ子ども

②進んで挙手し、自分の考えを話す子ども

中学年 …①根拠（理由）を明確にして自分の考えをもつ子ども

②聞き手を意識し、自分の考えを順序立てて話す子ども

高学年 …①課題把握での見通しから、根拠（理由）を明確にして自分の考えをもつ子ども

②聞き手を意識し、自分の考えを図や表、算数用語を用いて順序立てて分かりやすく話す子ども

## 4 研究内容

自分の考えをもち、分かりやすく表現できる子どもを育てるために、「上条小学びのステップ1・2・3」を意識した指導を行い、その有効性を探る。研究教科は、算数科とする。

### (研究仮説)

算数科の指導を通して「上条小学びのステップ1・2・3」を全校体制で取り組めば、自分の思いや考えをもち、分かりやすく表現できるようになり、学習への意欲の高まりや基礎基本の定着に結び付くだろう。

## 伝え合うための上条小学びのステップ1・2・3

- 1 実態に合った学習課題の設定と提示（確実な課題把握と解決意欲のアップ）
- 2 かく活動を通した思いや考え獲得のための支援（一人一人の思い・考え獲得を保障）
- 3 ねらいを明確にした伝え合いの場の設定（伝え合うことへの目的意識の醸成）

児童は、相手意識・目的意識をもって聞いたり話したりする力が身に付き、伝え合いの質が高まる。

### 5 授業研究の実施

授業日	授業者	学年	単元名	指導者
6月 3日	中山 智美	1	たしざん（1）	阿賀町学習指導センター 指導主事 中原 広司 様
6月 28日	高橋 直子	3	たし算とひき算	下越教育事務所学校支援第2課 指導主事 石塚 文弘 様
8月 4日	上川地区合同指導案検討会			阿賀町学習指導センター 指導主事 中原 広司 様
9月 15日	森田 明美	2	水のかさ	阿賀町学習指導センター 指導主事 中原 広司 様
10月 18日	宮嶋 孝彰	5	分数のたし算とひき算	阿賀町学習指導センター 指導主事 中原 広司 様
11月 16日	高橋 直子 郡小教研上川地区研修会	3	三角形	下越教育事務所学校支援第2課 指導主事 石塚 文弘 様

### 6 成果と課題（成果：○ 課題：▲）

#### (1) 学びのステップ1 児童の実態に合った学習課題の設定と提示方法の工夫について

○児童の興味をひく題材の工夫をしたことで、児童は意欲的に学習に取り組んでいた。毎日の授業の中で児童の実態に合わせた課題を設定することは困難である。小さな工夫と大きい工夫を単元内でバランスよく組み込んでいく必要がある。

○児童の実態に合わせて難易度を設定したことで、既習事項を想起して見通しをもって課題に取り組んでいた。少人数指導であることを生かし、児童の実態に合わせた細やかな指導が今後必要である。

#### (2) 学びのステップ2

かく（書く・描く）・操作する活動を通した思いや考え獲得のための支援について

○今年度から自分の考えを表す1つの手段として操作活動も取り入れた。操作しながら自分の考えを順序よく説明する姿が多く見られ、成果を感じた。

▲ホワイトボードを活用した取組が多かったが、ノートに考えが残らないところが気になる。工夫が必要である。

#### (3) 学びのステップ3 ねらいを明確にした伝え合いの場の設定について

○3年生の公開授業では、分かったことや疑問を自由に出し合い、活発に交流する姿が見られた。

○伝え合いでは、整理された考えを伝えるだけでなく分からなさの共有の場になると更によい。

▲相手の考えを聞いて「質問しましょう。」「同じところや違うところを見つけましょう。」と視点を与えることで、相互に意見交流をさせたい。そのためには、聞く力の育成が必要である。